

# 平成 27 年度（2015 年度）梅花中学校・高等学校 学校評価

## 1. めざす学校像

- (1) 建学の精神に従い、キリスト教主義のもと、他者への愛と奉仕の精神を備える自立した女性を育成する。
- (2) 多様な価値観を認めて隣人と連帯する意欲を持つ女性を育てる。
- (3) のびやかな感性を養い、調和のとれた知性を持って社会に適合し、社会に貢献できる女性を育てる。

## 2. 中間的目標

### 1、生徒指導充実のため、更なる教員のスキルアップ

- (1) 全校生徒を対象、学校評価アンケートの実施
- (2) 新人教員育成制度の導入

### 2、ICT 教育の推進

- (1) ICT 機材を用いた授業研究の推進
- (2) ICT 環境の整備
- (3) ICT 環境を用い、アクティブラーニング (AL) を取り入れた授業研究の推進 (新規設定)

### 3、危機管理の徹底

- (1) 火災・防災訓練の強化
- (2) 不審者進入防止・侵入時の危機管理マニュアルの改訂
- (3) 災害時の危機管理マニュアルの作成
- (4) 災害時の食料等の備蓄

### 4、カウンセリング体制の強化

- (1) スクールカウンセラーの常駐化
- (2) スクールカウンセラーとの連携強化

### 5、財務状況の共有化

- (1) 財務説明会の実施
- (2) コスト意識の改善

## 3. 学校評価の結果と分析

### 【生徒による学校評価の結果・分析】

各教科担当およびクラス担任に関して4段階（そう思う(4点)・だいたいそう思う(3点)・あまり思わない(2点)・思わない(1点)）でアンケートに回答を求めた。各項目別に中学・高校の平均値を算出し、評価とした。

普通教科については中学高校ともほぼ昨年同様の結果となった。実習教科およびクラス担任においては、昨年度と逆転し全ての項目において中学生の評価が 0.16~0.45 ポイント高校生の評価を上回った。この結果は中学生の評価が大幅に上昇した事による。項目ごとでは、生徒への公平な接し方、言葉遣いや振る舞い、教室への移動、朝の礼拝指導など基本的な行動については今年度も比較的良好な評価であったが、興味がわく工夫や授業改善、「建学の精神」や「スクールモットー」に触れる時間などは、厳しい評価を全体では受けている。

個々の担当者の結果には差が見られ、低い場合には個別に面談を実施し改善点を確認した。

#### 【専任教員による自己評価の結果・分析】

昨年度と同様に、学校運営15項目・教育内容14項目・生徒指導支援6項目・教員研修資質向上5項目を設定し、項目ごとに、「A：よくあてはまる」「B：ややあてはまる」「C：あまりあてはまらない」「D：まったくあてはまらない」の4段階で自己評価を行った。集計は、それぞれの評価を、Aを4点、Bを3点、Cを2点、Dを1点として、各項目の得点の平均値を算出した。集計結果から前回調査以後、改善された点、対応が必要な点などを洗い出し、今後の改善目標を明らかにした。

2015年度の全項目の平均値は2.996となり、昨年の2.956とほぼ同様の結果となった。平均が高い評価の観点とは昨年同様、「教育課程」、「情報公開」、「教育内容」のその他（読書推進、部活動、学校行事、スポーツ芸術文化）、「生徒指導」があげられる。直接、生徒の教育活動に関わる部分での評価が高い。逆に評価が低かった観点は、「財務関係」、「研修結果の共有」があげられる。これらの項目が改善されることで、生徒への教育活動がさらに活発になると考えられることから、今後の重点課題としたい。

昨年からの比較では、評価が向上した項目は、40項目中23項目あった。特に大きく改善が図られたものは、①「初任者のサポート」、②「校内研修」が上げられる。新任アドバイザー制度やICT教育プロジェクトを立ち上げ研究授業を盛んにした事が評価を高めたと考えられる。逆に降下したものは、①「環境教育」、②「財務関係」があげられる。今後改善のための取り組みが必要と考えられる。

#### 4. 学校関係者評価委員会からの意見 平成28年10月29日実施

(委員) 校長・副校長・PTA会長・地域郵便局長・学園評議員総務部長

##### 【平成27・28年度実施の生徒評価について】

- ・高校生はポイントが高くなっており良いと思うが、中学生の評価が厳しいのはどうしてか。
- ・礼拝等の指導が整然と行われているという評価と、建学の精神を考える機会が多いという評価が結びつかないのはどうしてか。
- ・建学の精神を、心の中で子供たちが持ち続けて欲しい。

##### 【平成27・28年度実施の教員自己評価について】

- ・学習指導要領に沿っている。と言う問いに評価が低いことが気になる。
- ・学校行事、部活動、スポーツ・芸術など教育内容の項目で自己評価が高いことはよい。
- ・豊中市制80周年記念で企画された、企業と共同してのスイーツ開発は良いと思った。
- ・ICT教育を推進されていると聞いたが、教材づくりが大変ではないか。
- ・芸術関係や食品関係の実習にはお金がかかるのではないか。
- ・以前からクラブ活動が盛んであったが、今はどうか。
- ・特別進学コースの改革は来年度からか。

【本年度の取り組み内容および自己評価】

中間的 目標	今年度の 重点目標	具体的な取り組み 計画・内容	評価 指標 進捗	学校評価
1. 教員 スキル アップ	(1) 生徒対象に学 校評価アンケート を実施  (2) 新人教員育成 制度の導入を 検討・実施	(1) ア、2 学期第 1 回アンケートを実施 イ、結果・集計を教員へ通知 必要に応じて管理職面接を実施 個々現状を把握し改善点を見つけ スキルアップをはかる ウ、年度末に 2 回目のアンケートを実施 改善状況の確認を行う  (2) ア、新人にアドバイザー教員を配置 授業・生徒指導等でレポートを作成し 育成をはかる。 イ、教員への告知し共通理解を得る ウ、個々の次年度目標を提出	(1) イ、までを実施済 み  ・前回のアンケートと 比較し、全教員の 評価平均値が向 上  (2) ア、新人にアドバイザー教員を配置 し、相談しやすい 環境を作れた。 イ、まで実施 ウ、を進めて行く ・教員研修自己 評価アンケートで AB の割合を 70%以 上にする。	教員による自己評 価（以後自己評価） では、クラスの礼拝等 早朝の取り組み、 生徒に公平に接し ている点が評価が 高い事は評価でき る。一方、建学の精 進等を考える機会 が多くないと評価 されている点は、 改善が必要。  継続してアンケートが 必要と考える  教員研修面は、 昨年からは改善傾 向が見られる。  27 年度 AB の割合 が 73.7%となる。 継続して取り組む
2. ICT 教育 の 推 進	(1)ICT 機材を用 いた授業研究 の推進  (2)ICT 環境の整 備	(1) ア、プロジェクトチームを結成し、委 員が中心に情報収集・校外研修に 参加する イ、委員が校内で研究授業を実施し、 全教員へ普及を図る。  (2)電子黒板機能付プロジェクタ、ホワイ トボードを備えた教室を増やす。	(1) ア、実施済 イ、プロジェクトメンバ ーが ICT を用いた 研究授業を実施。 他の教員が授業レ ポートを作成しメン バーで共有した。  自己評価アンケートに 項目を加え、AB の割合を 80%以 上にする。  (2)27 年度大阪府 から補助をいた だき 9 教室にプロ ジェクタ等を整備す	ICT 機材の導入が 進んでいるが、授 業での活用を引き 続き推進する。

	(3)ICT 環境を用い、アクティブラーニング(AL)を取り入れた授業研究の推進	(3)新規項目として取り組む ア、教員研修会を実施し AL について学ぶ イ、ICT プロジェクトメンバーを中心に研究授業を実施 ウ、全教員の普及を図る	る。 全ホールームへの設置を段階的に進める。  (3) 初年度、教科で1名以上の教員で研究授業を実施する。  自己評価アンケートに項目を加え、ABの割合が70%以上を目指す。	新規項目で次年度評価を実施する  AL を含め重要項目として取り組む。
3. 危機管理の徹底	(1) 火災・防災訓練の強化  (2) 不審者への対応マニュアルの改訂  (3) 災害への対応マニュアルを設定  (4)食料等の備蓄	(1)年2回の訓練を学期ごとに3回実施する。 (2) ア、校務分掌の変更など整理し、現行の対応マニュアルの見直しを実施する イ、マニュアルを教職員で共有化し対応できるよう訓練等を実施 (3) ア、学園レベルでの危機管理マニュアルを策定 イ、 マニュアルを教職員で共有化し対応できるよう訓練等を実施 (4)非常食・水を3年間かけ全校生分を備蓄する(2013年度から継続中)	(1)今年度3回実施できた。  (2)見直し中  (3)策定中  (4)全生徒分の備蓄が完了した。  ・危機管理自己評価アンケートで AB の割合を80以上にする	自己評価アンケートで AB の割合が85%を越える。  危機管理マニュアルの完成、マニュアルの訓練の実施をめざす  継続して重点項目とする。
4. カウンセリング強化	(1) スクールカウンセラーの常駐化  (2) 連携強化	(1)スクールカウンセラー週5日間の常駐化を図る  (2) ア、カウンセラーと教員との懇談を定期的に実施 イ、講演会等の教職員研修を実施	(1)週5日の常駐を実施できた。  (2) ア、カウンセラーを含め特別支援委員会を月1回、定期開催できた。  イ、未達成  ・カウンセリング体制自己評価アンケートで AB の割合を80以上にする	自己評価アンケートで90%近い評価になった。 目標を達成できた。  今後は、不登校生徒への対応強化へ繋げていく。

<p>5. 財務状況の共有化</p>	<p>(1) 財務説明会の実施  (2) コスト意識の改善</p>	<p>(1) 職員会議での財務説明会を実施  (2) ア、職員会議での節電等の注意呼びかけ イ、蛍光灯から LED への入れ替え  (3)自己評価で評価の低かった、評議員・理事会機能の理解を深めるため職員会議で報告を定期的に行う</p>	<p>(1)職員会議で常務理事から複数回報告を実施した。  (2) 節電のための食堂使用時間を見直した。 耐震補強工事にあわせ一部 LED 化した。  ・財務関係自己評価アンケートで AB の割合を 70%以上にする。</p>	<p>昨年より改善しているが、AB の割合が 50%前後にとどまり目標未達成である。さらに改善の必要がある。  継続して重点項目とする。</p>
--------------------	---	--	---	--